慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	大手建設業における価値創造の源泉と今後の方向性
Sub Title	
Author	堀田武靖(Hotsuta, Takeyasu) 小林喜一郎
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1999
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1999年度経営学 第1548号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001999-1548

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	小林喜一郎研究会	学籍番号	89828840	氏　名	堀　田　武　靖

（論文題名）

大手建設業における価値創造の源泉と今後の方向性

（内容の要旨）

本論文は、市場の縮小と競争の激化が進む建設業界において、大手建設業がいかなる資源、能力をもって今後の競争環境に対応すべきかを考察したものである。

まず、建設業界の置かれた状況を俯瞰し変化がゼネコンという業態の根幹に関わる部分でも生じていることを確認する。それを踏まえて今後の大手建設業の方向性を考察するにあたり、これまでゼネコンがどのような価値を創造してきたかを実例を挙げて分析する。

分析のフレームとして、価値の元になった資源の供給源、価値の発生段階、及び資源から生じる能力に注目し分析を行った。その結果、制約条件が厳しく、かつプロジェクトの川上段階から川下段階まで終始一貫して関与した案件において大手ゼネコンは有意義な価値を創造しているが、そうでないプロジェクトにおいては、大手以外のゼネコンと顕著に差別化できる価値を創造していないことが導出された。

このことから、今後の大手建設業は内部資源以外に外部の資源を積極的に取り込みつつ、強みである川上段階への特化、もしくは現状さしたる差別化要因のない川下段階の価値連鎖に独自性を発揮する等の方策によりより明確な競争力を構築することが必要であることが提言として示された。